

第40回田原市市民協働まちづくり会議 議事録要旨

1 日 時	令和7年10月20日（月）午後3時30分～午後5時10分
2 場 所	300会議室
3 出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
4 連絡事項	1 報告事項 （1）市民協働まちづくりの推進体制について （2）市の機関の取組について （3）市民活動支援制度活用状況について （4）田原市民活動支援センターの運営について 2 その他 ○ 意見交換等

※委員の発言に対する回答・意見について

“⇒” で示したものは事務局の回答・意見

“➡” で示したものは報告者（委員、参加者）からの回答・意見

会議内容要旨

事務局：会議資料の確認

《藤井会長よりあいさつ》

- ・様々な立場の方が参加しているので、意見を出し合い、田原市の市民協働まちづくりについての意見が交換できる機会にしたい。

2 報告事項

（1）市民協働まちづくりの推進体制について

○事務局：資料1、2について説明。

《委員からの質疑・意見》

- ・SNSの情報発信について、実際どれくらいの閲覧があるのか。
- ➡市民活動センターのインスタグラムのフォロワー数が286人。少しずつではあるが、増えている。
- ・田原市市民協働まちづくり事業補助金制度を組み替えたのがよかった。市民活動のハードルが上がってしまうと始めにくいので、選択肢を増やすことで、よりたくさんの人が市民活動を始められるきっかけになるのではないかと思います。

（2）市の機関の取組について

○大羽委員：資料3について説明。

《資料3補足（大羽委員）》

- ・ごみカレンダーの発行やごみの分別アプリで情報発信を行っている。今年の1月から生ごみと可燃ごみを分別する取り組みも始まった。
- ・市民意識調査や男女共同参画に関するアンケートの回答も電子で回答できるようになっている。国税調査の電子回答は全体の6割ほどだった。

- ・野田市民館の建替工事や南部市民館、和地市民館の多目的ホールの整備事業にまちづくり基金を使用している。

《委員からの質疑・意見》

- ・地域コミュニティでは、どの地域も人口が減少している中で、役員を出すのが難しい状況になってきている。なんとかできないか。
- ➡現状を理解し、市は取り組み方を柔軟に変えていかなければならない。市民活動団体に関しても、それぞれの思いがあって取り組んでくれており、今後は企業やコミュニティと関わりながら活動できるようにしていくとよい。
- ・若者と市民活動団体が関わることでできる機会がこれから増えるという。
- ・子供会や小学校のPTAなど、役員が終わった後も役に立てる人材の育成ができるとよいと思う。

《藤井会長まとめ》

- ・人口減少の問題は必ず顕在化してくる。企業や地元の中学生、高校生と市民活動団体が繋がりを持つことが、今後の市民活動を充実させていくために重要なことだと思う。

(3) 市民活動支援制度活用状況について

○事務局：資料4について説明。

《委員からの質疑・意見》

- ・少額枠の総事業費と補助額が少ないのは何か理由があるのか。
⇒物品が揃ってきている関係で、全体の事業費が少なくなった。
- ・田原市社会貢献活動災害補償制度の傷害事故や損害賠償はどんな事故があるか。
⇒傷害事故に関しては、スポーツ大会中の突き指や捻挫などが上がっている。損害賠償では、ソフトボール大会中、ソフトボールで中学校のガラスを割ってしまった事例や草刈り作業中に飛び石が車のガラスにあたってしまった事例等がある。
- ・新規団体枠の上限が5万円から7万円に上がったことで、新たに団体を立ち上げる団体にとってはありがたい。
- ・中学生や高校生のボランティアをどのように集めてやっていくのか。
⇒「育ち愛まるしえ」では、田原中学校のたはランティア、福江中学校のドリームの会、福江高校からボランティアを集めることができた。たはランティアは市民活動をされている方から教頭先生につないでいただいた。福江中学校のドリームの会は福江市民館から学校につないでいただいた。福江高校はあつみ編集者の方が団体に所属しているので、そこから学校の先生につながった。
- ・保育園や小学校への案内は電子化が多いが、発信は担当の先生に委ねられていて発信がなかなかされない場合がある。全ての保育園や小学校に発信するためには紙の方が確実なので、広告費がもう少し上がる可能性がある。

(4) 田原市民活動支援センターの運営について

○事務局：資料5について説明。

《資料5補足（渡会委員）》

- ・市民活動支援センターに直接相談に来る件数が減った代わりに、SNSでの反応が増えた。
- ・補助金を使ったり、企業の方の力を借りてボランティアをする形になってきている。

- ・田原市市民協働まちづくり事業補助金についての相談を市民活動支援センターで受けた場合、立ち上げを支援する制度であるため、これから活動をつなげていくために必要なものを補助金で使う旨をセンターから伝えるようにしている。

《委員からの質疑・意見》

- ・YAROMAI 主催で11月8日（土）に「親子 de 防災キャンプ」を開催する。男性の参加もあり、校区の自治会の方や防災リーダーにも参加をしてほしいが、校区の方も忙しいので参加が難しいところがある。

3 その他

《委員からの質疑・意見》

- ・市民活動団体がだんだん減ってきており、新規団体が出てこなくなってきた。団体が少しでも相談しやすい環境を作っていくことが大切なので、これから感じたことや意見があれば、積極的に出してほしい。
- ・役員が変わっても事業を継続していく雰囲気を作っていくべきである。

《総括意見（藤井会長）》

- ・人材の問題は今後しっかり考えていかなければならない部分である。農業現場でも同じような問題に直面しており、人材を確保するために様々な手段を使って上手くやっている地域もある。企業や若者、地域コミュニティなどに関わりを持つことが大事である。

午後5時10分閉会